

電子レポートの作成実験

須惠 耕二^{A)}, 小寫 一生^{B)}, 谷口 勝紀^{B)}, 大村 悦彰^{B)}, 志村 友行^{B)},
吉岡 昌雄^{B)}, 松田 樹也^{A)}, 山口 倫^{B)}, 寺村 浩徳^{A)}, 榎菌 佑希^{A)}

A) 電気応用グループ

B) 先端情報グループ

1 はじめに

本実験は情報電気電子工学科 2 年次の必修科目として行われている。本実験では、論文やレポート執筆時に必要となるソフトウェア pLaTeX 及び gnuplot を用いて文書作成を行えるようになることが目的である。本実験の支援を電気応用グループ・先端情報グループの技術職員が行ったのでここに報告する。

2 内容

本実験は前期火曜 3・4 限あるいは木曜 1・2 限に 3 週間に渡って実施される。各曜日の受講者は約 80 名であり、それぞれ 4 名, 5 名の技術職員が支援している。実験は研究棟 IV 2 階の情報演習室にて実施され、LinuxPC 上のソフトウェア pLaTeX 及び gnuplot を使用して進められる。

実験は演習形式で進められ、基本操作のほかに学生は下記項目の課題に取り組む。

- ・空白、空行の扱い方
- ・左右中央寄せ、下線、箇条書きの方法
- ・数式の記述
- ・表の作成、相互参照の設定
- ・グラフ作成
- ・図形の挿入

実験における技術職員の支援内容は、挙手または口頭で質問してくる学生への指導、課題のチェックである。本実験では学生の課題実施の進捗にばらつきが多く、また学生からも質問が非常に多く出てくる為、常時学生に対応している状況である。

3 まとめ

本実験を通して学生が習得する pLaTeX 及び gnuplot の利用方法は、以後学生が学生実験のレポートや卒業論文執筆に利用する必要不可欠なスキルである。従って実験時間中に学生が躓いている点や疑問点を解決すべく、指導することを心掛けた。